



総合戦略

I ー 基本的事項

1. 地方創生をめぐる現状認識（人口減少の現状）

福 智町の人口は、昭和30年の約4万2千人をピークに減少を続け、平成27年の国勢調査人口は2万3千人を割り込み、ピーク時に比べ半減している。65歳以上の高齢者人口は約7千5百人で、人口に占める割合（高齢化率）は32.7%と過去最高を記録し、空前の速度で高齢化が進んでいる。合計特殊出生率は平成10～14年に最低の1.57となったが、平成20～24年には1.62まで上昇した。一方、年間出生数は平成22年に初めて200人を割り込み、平成30年には160人にまで減少している。福智町の人口は、25年後の令和27年には約1万3千人にまで落ち込む推計も示されており、人口減少に歯止めがかからず、少子高齢化は深刻な状況に直面している。

2. 人口減少と地域経済縮小の克服

福 智町の人口減少は、消費市場の規模縮小だけでなく、町勢の低下と景気低迷を生み出しつつある。こうした地域経済の縮小は、福智町の生産力と住民の経済力低下につながり、高齢化の進展もあいまって、地域社会の様々な基盤の維持を困難としている。

こ のように、福智町は「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラル（悪循環の連鎖）に陥っている。そのため、人口減少を克服し、福智町の創生を成し遂げるためにも、引き続き以下の基本的視点で、人口、経済、地域社会の課題に対し、一体的に取り組むことが何よりも重要である。

1 都市部への人口流出の流れを変える

福智町からの人口流出に歯止めをかけ、「都市部への集中」と「東京一極集中」を是正するため、「しごとの創生」と「ひとの創生」の好循環を実現し、快適かつ安全な環境を実現する。

2 就労・結婚・出産・子育ての希望を実現する

人口減少を克服するため、誰もが安心して就労し、希望どおり結婚・出産・子育てをすることができるような社会経済環境を実現する。

3 地域の特性に即して地域課題を解決する

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、地域が直面する課題を解決し、地域において、安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるようにする。

I ー 基本的事項

4 問題意識を共有しながら人口減少の克服と成長力の確保に取り組む

人口減少の克服は構造的な課題であり、解決には長期間を要する。仮に短期間で出生率が改善しても、出生数は容易には増加せず、人口減少に歯止めがかかるまでに数十年を要する。一方で、解決のために残された選択肢は少なく、無駄にできる時間はない。こうした危機感を持って、町民と問題意識を共有しながら、人口減少克服と成長力確保に取り組んでいく。

3. 計画期間

2020(令和2)年度～2024(令和6)年度までの5年間

Ⅱ 政策の企画・実行に当たっての基本方針

1. 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

人

人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、次の5つの政策原則に基づき、関連する施策を展開する。

1 自立性

地方公共団体・民間事業者・個人等の自立につながるような施策に取り組む。

2 将来性

施策が一過性の対症療法にとどまらず、将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。

3 地域性

地域の強みや魅力を活かし、その地域の実態に合った施策を、自主的かつ主体的に取り組む。

4 総合性

施策の効果をより高めるため、多様な主体との連携や、他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。その上で、限られた財源や時間の中で最大限の成果を上げるため、直接的に支援する施策に取り組む。

5 結果重視

施策の結果を重視するため、明確なPDCAサイクル*の下に、客観的データに基づく現状分析や将来予測等により、短期・中期の具体的な数値目標を設定した上で施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標により評価し、必要な改善を行う。

※ PDCAサイクル：Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)という4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。「Plan-Do」として効果的な地方版総合戦略の策定・実施、「Check」として地方版総合戦略の成果の客観的な検証、「Act」として検証結果を踏まえた施策の見直しや地方版総合戦略の改訂を行うことが求められる。

Ⅱ－政策の企画・実行に当たっての基本方針

2. 政策目標設定（KPI）と政策検証（PDCAサイクル）

政 策分野ごとに講ずべき施策の基本方向と具体的な施策を示し、各施策の効果を客観的に検証する指標である重要業績評価指標(KPI)*を設定する。

ま た、地域の課題に基づく適切な短期、中期の政策目標を設定し、効果検証のための委員会を設置するなど、総合戦略の進捗を検証しながら改善する「PDCAサイクル」を確立する。

※ 重要業績評価指標 (KPI) : Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

Ⅲ－施策の方向

1. 政策の基本目標

1 成果(アウトカム)を重視した目標設定

政策の「基本目標」については、福智町の人口・経済の中長期展望を示した「人口ビジョン」を踏まえ、「第2期総合戦略」の目標年次である2024(令和6)年度において、福智町として実現すべき成果(アウトカム)を重視した数値目標を設定する。

ただし、成果(アウトカム)を重視した数値目標の設定が困難な場合は、結果(アウトプット)を重視した数値目標を設定する。

2 4つの基本目標と2つの横断的目標

「第2期福智町人口ビジョン」を踏まえ、人口減少に歯止めをかけるとともに、都市圏への人口流出を是正するために、「第2期福智町地方創生総合戦略」における4つの基本目標と2つの横断的目標を設定する。

1 基本目標

基本目標 1 福智町にしごとをつくり、安心して働けるようにする。

基本目標 2 福智町への新しい人の流れをつくる。

基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる。

基本目標 4 誰もが安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる。

Ⅲ 施策の方向 2 4つの基本目標と2つの横断的目標

2 横断的目標

横断的目標 1

人とつながりを強化する。

誰もが居場所と役割を持って活躍できる地域社会を目指し、将来的な移住につながる「関係人口」*を創出する。

横断的目標 2

新しい時代の流れを力にする。

Society5.0*の実現に向けた技術（未来技術）の活用を推進するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）*を目指した地方創生を推進する。

※ 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指す。地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しているが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めている。その地域に興味を持つ「交流人口」から、さらに地域へ愛着を持ち、通うようになる「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となり、「定住人口」としての移住につながることを期待されている。

※ Society（ソサエティ）5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。「狩猟社会（Society 1.0）」「農耕社会（Society 2.0）」「工業社会（Society 3.0）」「情報社会（Society 4.0）」に続く、人類史上5番目の新しい社会「超スマート社会（Society 5.0）」を指す取り組み。Society 5.0で実現する社会は、第4次産業革命により、IoT（Internet of Things）で人とモノがつながり、知識や情報が共有され、今までにない新たな価値やサービスを生み出すことで、社会的課題や困難を克服していく。創出される新たな価値により、地域、年齢、性別、言語等による格差がなくなり、個々の多様なニーズ、潜在的なニーズに対して、きめ細かな対応が可能となり、モノやサービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供されるとともに、社会システム全体が最適化され、経済発展と社会的課題の解決を両立していける社会となる。また、人工知能（AI）やロボットによる自動走行車、ドローンなどの技術による社会の変革（イノベーション）を通じて、人々に豊かさをもたらしていく。

※ SDGs（エスディージーズ）：「Sustainable Development Goals」の頭文字を取った略語で「持続可能な開発目標」として訳される。2015年の国連サミットで採択された2030年までの国際目標で「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを宣言している。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため「貧困」「飢餓」「保健」「教育」「ジェンダー」「水・衛生」「エネルギー」「成長・雇用」「イノベーション」「不平等」「都市」「生産・消費」「気候変動」「海洋資源」「陸上資源」「平和」「実施手段」におよぶ17の目標が設定されている。さらにその下には169のターゲット、232の指標が設定されている。SDGsの取り組みは、少子高齢化の課題に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、住みやすい環境を確保し、将来にわたって活力ある社会を維持することを目指し、地方創生につながるものであり、第2期地方創生総合戦略においては、SDGsの考え方を踏まえた施策の推進に取り組むものとする。

Ⅲー 施策の方向 ② 政策パッケージ – 基本目標 1

2. 政策パッケージ

基本目標 1 福智町にしごとをつくり、安心して働けるようにする。

1 数値目標

- 【1】新規就業者数：200人（5か年計）
- 【2】創業事業所数：10事業所創業（5か年計）
- 【3】事業創出売上額：15億円創出（5か年計）

2 基本的方向

- 【1】福智町の地域ブランド化につながる特産品開発や販路開拓を支援する。
- 【2】民営化等による公共施設の利活用を推進し、地域活性化を図る。
- 【3】企業誘致の推進基盤や創業支援、相談対応等を強化し、新規就業の増加に結びつける。
- 【4】未来技術を活用した地域課題の解決・改善に向けた活動を推進する。

3 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

1 地域ブランド化とふるさと納税につなげる特産品開発

地域ブランド化とふるさと納税につなげる新たな福智産品や地域の産物を生かした特産品開発を推進し、生産者育成と地域経済の活性化を図り、町や特産品の魅力を全国的にPR展開する。

また、ふるさと納税における福岡県認定地域資源返礼品を企業連携により強化し、まちづくりの財源として活用する。

重要業績評価指標（KPI）

- ① 特産品開発商品数：5商品（5か年計）
- ② 寄附者リピート寄附率：25%以上
- ③ ふるさと納税ポータルサイト全国種別ランクイン返礼品数：年間3品目以上

具体的な取り組み内容

- ① 新たな産品開発をサポートし、特産品開発とふるさと納税返礼品の拡充を推進する。
- ② 企業連携によるつながりを生かしたふるさと納税の福岡県認定地域資源返礼品の開拓と魅力の充実を図る。
- ③ ふるさと納税のポータルサイト加盟数やウェブの発信機会を増加し、PRを強化する。

Ⅲー 施策の方向 ② 政策パッケージ ー基本目標 1

② 公共施設の完全民営化による地域活性化と雇用確保

指定管理者制度により運営している町有施設等を完全民営化することにより、プロフェッショナルな民間力を生かした質の高いサービス提供や経営安定化を図るとともに、雇用を確保し、施設の維持管理コストを削減する。

● 重要業績評価指標 (KPI)

- ① 完全民営化件数：3施設（5か年計）
- ② 維持管理削減額：3千万円以上（5年後）
- ③ 観光旅行サイト温浴施設満足度：3.5以上（5点満点）

● 具体的な取り組み内容

- ① 「ほうじょう温泉ふじ湯の里」「ふるさと交流館日王の湯」「上野の里ふれあい交流会館」のさらなる活性化を目指して、広い視野で計画的な完全民営化に向けた運営事業者選定を推進する。
- ② 運営事業者と連携した地方創生や観光振興、地域活性化を図る。

③ 農業の安定化と生産者育成の推進

農業経営の法人化と合理化を支援し、農地集積と集約化による効率化を推進する。また、認定農家や新規就農希望者への営農計画や技術的な相談支援等を行い、農業基盤の確保を図る。

● 重要業績評価指標 (KPI)

- ① 認定農家・農業法人：5経営体増加（5か年計）
- ② 新規就農者：5人増加（5か年計）

● 具体的な取り組み内容

- ① 農業経営の法人化を支援し、経営管理の合理化や経営発展を図る。
- ② 農地集積・集約化による効率化および土地基盤を整備する。
- ③ 新規就農者や若手営農者など、多様な対象者への支援等による農業後継者対策や営農継承の円滑化、人材育成を推進する。
- ④ 米、麦、大豆をはじめ、梨、イチゴ、イチジク等、ブランド果実および園芸作物の生産強化を図る。

Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ ー基本目標 1

4 上野焼振興計画と産地活性化の推進

第2次上野焼振興計画に基づく国・県等と連携した支援を充実させることにより、さらなる産地活性化と伝統的工芸品の振興を推進する。

古窯跡を含めた上野焼の基礎調査研究を推進し、上野焼の歴史的価値の確立を目指す。

重要業績評価指標 (KPI)

- 1 上野焼教材の発行：2種発行（5か年計）
- 2 全国規模の企画展出展：毎年1会場以上
- 3 上野焼陶芸体験参加者数：700人以上（5か年計）

具体的な取り組み内容

- 1 第2次上野焼振興計画を策定し、国・県・町等による連携した支援により、伝統的工芸品の振興と産地活性化を図る。
- 2 福智町ゆかりの漫画家等に上野焼の歴史に関する教材の執筆を依頼し、子ども向け、大人向けの資料を作成し、上野焼の歴史を幅広い世代で共有する。
- 3 上野焼の基礎調査・研究や古窯跡の発掘調査等を推進し、上野焼の歴史的価値の確立を目指す。
- 4 利休七哲の小倉城主・細川忠興が創始した御用窯、豊前小倉藩窯、遠州七窯としての魅力を広く発信する。

5 福智町しごと相談窓口を活用した就業促進

地元のきめ細かな求人情報など、就業に役立つ身近な情報を効率的に提供できるよう、相談窓口を設置し、専門員を配置する。

また、就業時における若年人口流出に歯止めをかけ、ハローワークと連携した取り組みを展開するとともに、雇用と定住における情報提供の効率化を図り、就業へと結び付ける。

重要業績評価指標 (KPI)

- 1 相談件数：年間500件以上
- 2 求人紹介件数：年間50件以上
- 3 就業件数：年間30件以上

具体的な取り組み内容

- 1 ハローワークと連携した求人情報提供の充実を推進する。
- 2 専門員を配置し、個々の課題に応じたきめ細やかな相談対応を継続する。

Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ ー基本目標 1

6 企業誘致奨励金制度を活用した誘致活動の推進

企業誘致奨励金制度の支援内容を拡充させることにより、さらなる企業の町内進出を促進し、雇用の創出と地域経済の活性化を推進する。

また、商工会と連携した「創業支援等事業計画」の推進により、地域経済の活性化と創業支援を図る。さらに、民間による住環境整備を推進するための支援政策を確立する。

重要業績評価指標 (KPI)

- 1 誘致企業件数：2社増加（5か年計）
- 2 創業支援者数：年間10人
- 3 創業者数：年間2人

具体的な取り組み内容

- 1 企業誘致条例の奨励金制度「工場等設置奨励金」と「雇用促進奨励金」の支援内容拡充により、さらなる誘致企業の進出を促進する。
- 2 「創業支援等事業計画」を推進し、商工会と連携した創業支援と企業誘致を図る。
- 3 アパートやマンション等の民間企業の誘致を促進し、コンパクトタウン化を図るとともに、計画への支援を推進する。

7 学校跡の利活用の推進

将来的な人口減少を見据えた校区における中長期的な方針を定めるとともに、統廃合後の学校施設および学校跡地の利活用を推進する。

重要業績評価指標 (KPI)

- 1 統廃合後の学校施設の利活用：1件以上（5か年計）

具体的な取り組み内容

- 1 民間力を活用した統廃合後の学校施設および学校跡地の利活用を推進する。
- 2 将来的な校区方針を定め、地域や住民への情報提供と意識共有を促進する。

Ⅲ－施策の方向 2 政策パッケージ －基本目標 1

8 福智版 Society5.0 およびSDGsの推進

少子高齢化や人口減少に対応した「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標 =SDGs)」に向けて、「社会的課題の解決」と「経済発展」を両立する未来技術を活用した「Society5.0」を描き、いつまでも住み続けられるまちづくりを住民や企業と連携して推進する。

重要業績評価指標 (KPI)

- 1 全国的先駆的事業の実現：1事業以上（5か年計）

具体的な取り組み内容

- 1 人工知能 (AI) や IoT (Internet of Things) が当たり前のように日常生活に溶け込み、誰もが質の高い生活をおくることができる福智町の未来像を柔軟な環境変化により創出する。
- 2 Society 5.0 による新たな価値観の創出に伴う持続可能な町の未来と地域社会を住民と広く共有する。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ －基本目標2

基本目標 2 福智町への新しい人の流れをつくる。

1 数値目標

- 【1】創出観光入込客数：120万人以上（5か年計）
- 【2】シンボルイベント経済効果額：1億円（5か年計）

2 基本的方向

- 【1】福智町の地域資源を活用した地方創生事業を企画実施し、観光産業への集客増を図る。
- 【2】企業連携や自治体間連携のつながりを生かした地域活性化と地域ブランド化を推進する。
- 【3】効果的なタウンプロモーションの展開により、都市圏をターゲットとした交流人口および関係人口の創出・拡大を図り、定住人口の増加へと結びつける。

③ 具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)

① 平成筑豊鉄道を活かした地方創生事業の企画推進

福智町に本社のある平成筑豊鉄道を活用した地方創生事業を企画し、推進する。福岡県と沿線市町村による地方創生事業で実現し、平成31年から運行している観光レストラン列車「ことこと列車」に係る町内の施設整備や駅施設の改修・プロジェクト等により、魅力と集客力を高める。

また、土曜・日曜運行の「ことこと列車」の平日稼働率を高め、さらなる収入増と地域活性化につながる取り組みを支援する。

● 重要業績評価指標 (KPI)

- ① 金田駅車両基地集客施設の整備 (5年後)
- ② 産学官等の連携による平成筑豊鉄道活性化プロジェクトの実現: 2事業 (5か年計)
- ③ 「へいちくフェスタ」来場者数: 5万人以上 (5か年計)

● 具体的な取り組み内容

- ① 観光レストラン列車「ことこと列車」や国内唯一の車両「キハ2004」のさらなる活用を図るための金田駅の車両基地機能の拡充。
- ② 集客や情報発信の増加につながる町内各駅等の施設の立地や特徴を生かした改修とプロジェクトの推進。

Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ －基本目標2

2 「福智スイーツ大茶会」を活かしたまちづくりの推進

福智町の人口を上回る3万人以上が来場する九州最大規模のスイーツイベント「福智スイーツ大茶会」のスケールメリットを活かした企業連携やタウンプロモーションにより、全国規模の展開につなげていく。

また、都市圏をターゲットとした交流人口の増加を図り、関係人口の創出・拡大へと結びつける。

重要業績評価指標 (KPI)

- ① 「福智スイーツ大茶会」来場者リピート率：50%以上（5か年平均）
- ② 「福智スイーツ大茶会」の協力スタッフ数（町職員除く）：毎年延30人以上
- ③ 「福智スイーツ大茶会」に係るスイーツの販売・提供箇所の実現：2か所以上（5か年計）

具体的な取り組み内容

- ① 「福智スイーツ大茶会」の全国規模展開の推進。
- ② 包括連結協定を提携しているJALの知見を活かした観光資源や地域資源が連携する相乗効果の高い観光基盤の整備。
- ③ 「福智スイーツ大茶会」に係るスイーツの販売・提供箇所の設置調整。

Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ －基本目標2

③ 方城スカイラインの活用と福智山麓の観光ルート化の推進

ウォーキングやサイクルツーリズム等に特化した「方城スカイライン」を整備し、上野地区などを含む福智山麓の観光ルート化を図る。

また、温浴施設と連携し、スポーツ・アクティビティ、リラクゼーション、ローカルフードを結び付けたヘルスツーリズムを推進する。

● 重要業績評価指標 (KPI)

- ① 方城スカイラインの活用と福智山麓の観光ルート化の実現（5年後）
- ② 「ほうじょう温泉ふじ湯の里」の再訪意思のある人の割合：50%以上（5年後）
- ③ 「上野の里ふれあい交流会館」観光入込客数：7万人以上（5年後）

● 具体的な取り組み内容

- ① 企業と連携したウォーキングやサイクルツーリズム等に特化した「方城スカイライン」の整備。
- ② 福智山麓の地域資源を活用した観光ルート化の振興。
- ③ 温浴施設等と連携したヘルスツーリズムの推進。
- ④ 日本三大修験「英彦山修験道」「英彦山六峰」の一つとしての観光ルートの確立。

Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ －基本目標2

4 未来技術を活用した福智山登山の新システム構築の推進

福智町のシンボル「福智山(901m)」の登山の魅力を高めるAIやIoTを活用した新たなシステムづくりに取り組み、登山者増加と地域経済の活性化に結びつけるとともに、福智の地域ブランド化を推進する。

さらに、初心者向けの「鷹取山(620m)」や「福智連峰」を尾根伝いに歩く「縦走ルート」など、登山者の体力に合わせたバリエーション豊かなルート選定が可能な登山情報をわかりやすく発信し、登山者の来訪や再訪につなげる。

重要業績評価指標(KPI)

- ① 登山者数カウント機能と登山回数認識アプリケーションの整備(5年後)
- ② インバウンド登山者対応パンフレットの整備とサイトを活用した情報発信(5年後)

具体的な取り組み内容

- ① 未来技術を活用した全国的モデルとなり得るような登山者数カウント機能と登山回数認識アプリケーションの整備。
- ② スマートフォンサイトを使った登山情報の提供と共有。
- ③ インバウンド登山者の来訪につなげるプロモーションの推進。

Ⅲー 施策の方向 ② 政策パッケージ - 基本目標2

5 文化財を活用した地域活性化と交流人口増加の推進

「城山横穴群(国指定)」や「伊方古墳(県指定)」などの史跡や「九州マクセル赤レンガ記念館(国登録)」や「興国寺(県指定)」などの文化財、国指定伝統的工芸品「上野焼」を活用した地域活性化と交流人口の増加を推進する。

重要業績評価指標(KPI)

- 1 町内文化史跡来場者数：1万5千人以上(5年後)
- 2 文化財関係企画展開催：年間4回以上

具体的な取り組み内容

- 1 「城山横穴群史跡公園」の保存整備
- 2 地域資源文化財の効果的なプロモーションや企画イベントの開催

6 地域資源の発信による交流人口および関係人口の創出・拡大

自然と歴史・文化に恵まれた福智の魅力の発信やプロモーションの展開により、観光のまちづくりの裾野を広げ、都市圏をターゲットとした交流人口および関係人口の創出・拡大を図る。

また、観光面のポテンシャルを活かした取り組みを展開するため、鉄道や観光ガイド、広域地域などの連携による効果の拡大を推進する。

重要業績評価指標(KPI)

- 1 都市圏や首都圏でのPRイベント出展回数：年間4回以上
- 2 鉄道ウォーキングイベント参加者数：年間500人以上
- 3 福智町観光ガイドによる活動および研修：年間5回以上

具体的な取り組み内容

- 1 都市圏や首都圏でのPRイベントへの出展。
- 2 「JR九州ウォーキング」や「へいちくウォーク」の連携開催。
- 3 福智町観光ガイドの育成と観光ツアー連携の推進。
- 4 広域連携プロジェクトや広域観光協会、定住自立圏構想等の取り組みによる新しい人の流れの創出・拡大。

Ⅲー 施策の方向 ② 政策パッケージ ー 基本目標3

基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる。

1 数値目標

- 【1】 合計特殊出生率：1.7（5年後）[平成27年 1.598]

2 基本的方向

- 【1】 誰もが夢を持ち、希望どおり結婚し、子どもを生き育てられるような、経済的安定に結びつく環境整備を推進する。
- 【2】 結婚から子育てまで、継続的な切れ目のないサポートを行い、移住・定住の促進を図る取り組みを推進し、支援制度を確立する。

3 具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)

1 若年層の就業・定住支援の推進

都市圏に進学・就職した若年層^{*}のUターンを促すとともに、地元の若者の就職活動を支援するなど、若年層の経済的な安定に結びつく環境整備を図る。
また、都市圏に居住する福智町出身者の生産年齢層^{*}のUターンを推進する。

重要業績評価指標(KPI)

- ① 転入若年層における町内出身者の割合：50%以上（5年後）
- ② 若年層の転入者数：450人以上（5年後）[平成30年度 403人]
- ③ 若年層の転出者数：450人以下（5年後）[平成30年度 500人]

具体的な取り組み内容

- ① 「定住促進奨励事業」および「空き家バンク制度」「空き家等解消支援奨励事業」を推進し、地域課題である空き家問題の解決と定住促進の両立を図る。
- ② 新規採用をはじめとした就業相談や求人情報提供の強化、就業セミナー等を商工会やハローワークと連携して実施し、若い世代の雇用の拡大を図る。

※ 若年層を39歳までに設定 ※ 生産年齢層：15歳～64歳

Ⅲ－施策の方向 ②政策パッケージ－基本目標3

2 結婚・妊娠・出産・子育て支援

福智町の合計特殊出生率は1.598(平成27年)であり、福岡県平均(1.49/平成30年)や全国平均(1.42/平成30年)を上回ってはいるものの、人口維持に必要な2.07には届いていない。

そのため、安心して子どもを生み育てられるサービスの充実を図るとともに、地域や社会で子育てを支える環境づくりを推進する。

重要業績評価指標(KPI)

- ① 合計特殊出生率：1.7(5年後)[平成27年 1.598]
- ② 保育所待機児童数：0人継続(5か年)

具体的な取り組み内容

- ① 国の無償化に加え、第3子以降のゼロ歳から2歳児への全世帯保育料無償化の継続実施。
- ② 中学3年生までの医療費無料化(子ども医療)の継続実施。
- ③ ファミリーサポートセンターの充実と利用促進。
- ④ 子ども家庭総合支援拠点の設置による相談全般への対応。
- ⑤ 放課後学童保育の内容充実と待機児童解消に向けた環境整備。
- ⑥ 病児・病後児保育料の全額助成。
- ⑦ 子育て世代包括支援センターによる子育て相談支援の継続。
- ⑧ 乳幼児期の健診、療育相談、就学支援の充実。
- ⑨ 結婚相談事業の推進。
- ⑩ 妊婦・乳児全戸家庭訪問事業の継続。
- ⑪ 任意予防接種の一部に対する助成事業の実施。
- ⑫ 産後ケア事業の継続と妊娠・出産・子育て時の「育児パッケージ」の配布。
- ⑬ 図書館・歴史資料館「ふくちのち」と連携したブックスタート事業の推進。
- ⑭ 制度面や財政面などの現状に合わせた効果的かつ柔軟な子育て支援策改変の推進。

Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ －基本目標4

基本目標 4 **誰もが安心して暮らすことができる
魅力的な地域をつくる。**

1 数値目標

- 【1】全国学力・学習状況調査において正答率40%未満の児童・生徒の割合：25%以下
- 【2】高齢者の要介護認定率：20%以下（5年後）[令和2年1月末時点：21.9%]

2 基本的方向

- 【1】小中学校や地域との連携を強化し、特色ある取り組みを充実させ、確かな学力の定着と向上を図る。
- 【2】高齢者や障がい者等の地域での支え合い体制づくりを推進するとともに、健康寿命を育む「福祉のまち福智」として、独自性かつ先進性の高い取り組みの実現を図る。
- 【3】住民の貴重な移動手段である公共交通を確保するため、将来にわたって持続可能な地域公共交通網の再構築に取り組む。

3 具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)

1 知識と技能、学ぶ力と人間力を高める教育の推進

小中学校や地域との連携を強化し、特色ある取り組みを充実させ、確かな学力の定着と向上を図る。

また、自らの人生を切り拓いていく力を義務教育期間を通して育み、予測困難なこれからの時代に求められる「生きる力」を育成する。

重要業績評価指標(KPI)

- 1 全国学力・学習状況調査において正答率40%未満の児童・生徒の割合：
25%以下（5年後）
- 2 学校運営協議会の開催率：100%（5年後）

具体的な取り組み内容

- 1 小中連携強化による9年間を見通した教育の推進。
- 2 各学校の学力向上プランの徹底と授業改善。
- 3 地域と学校の連携・協働体制構築事業の推進。
- 4 各学校の実態に応じた「コミュニティスクール」の推進（学校運営協議会の設置）。
- 5 図書館・歴史資料館「ふくちのち」による町内小・中連携事業と高・大・企業連携事業による学力向上の推進。
- 6 小学校英語専任講師の配置とICT*機器整備等の学習環境整備の推進。
- 7 グローバルな視野と感性を培う「APCC事業*」を活用した児童育成事業の実施。

※ ICT：インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー（Information and Communication Technology）の略で、情報技術（IT）に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。

※ APCC事業：「アジア太平洋子ども会議・イン福岡（Asian-Pacific Children's Convention in FUKUOKA）」が福岡をベースに展開している国際交流事業のこと。1989年に、福岡市制100周年を記念して開催された「アジア太平洋博覧会（通称：よかトピア）」の参加事業としてスタート。子ども達を対象に、国内外でのホームステイや学校体験など様々な交流機会を提供し、言葉や習慣の違いなどに触れ、お互いを分かり合う「OMOIYARI（思いやり）」の心を育むことを目的としている。福智町も令和2年度より受入窓口として参画し、町内児童と世界各国から来訪する子どもたちとの貴重な交流の機会を創出する。

Ⅲ－施策の方向 ② 政策パッケージ －基本目標4

2 いつまでも安心して暮らすことができる地域づくり

医療・保健・介護・福祉の機能が連動した包括的かつ継続的なケアが可能な環境づくりを推進する。

また、高齢者や障がい者等の地域での支え合い体制づくりを推進するとともに、健康寿命を育む「福祉のまち福智」として、独自性かつ先進性の高い取り組みの実現を図る。

● 重要業績評価指標 (KPI)

① 介護予防推進による介護給付費および介護保険料負担額の削減：

介護保険料算定基準の県内順位（グループ区分）の向上

● 具体的な取り組み内容

- ① 認知症サポーター養成講座、認知症カフェなど、認知症施策の積極的な推進。
- ② 介護予防・日常生活支援総合事業（訪問介護、通所介護）の継続。
- ③ 企業等と連携した「地域支え合い体制づくり事業」の継続実施。
- ④ 「ふれあい交流」など地域に根ざした自主活動への支援の推進。
- ⑤ 介護予防および介護予防体力測定の継続実施。
- ⑥ 高齢者関連相談対応の充実。
- ⑦ 地区公民館活動活性化による地域住民の連携強化と地域づくりの推進。

3 持続可能で利便性の高い公共交通の確保

住民の貴重な移動手段である公共交通を確保するため、将来にわたって持続可能な地域公共交通網の再構築に取り組む。

機能の集約化や生活インフラの変化など町や地域が抱える公共交通の課題に対応し、利便性を高めるため、法定計画を策定し、関係機関と連携しながら事業を推進する。

● 重要業績評価指標 (KPI)

① 新たな公共交通網体系での運行開始（5年後）

● 具体的な取り組み内容

- ① 福智町地域公共交通網形成計画の策定と事業推進。
- ② 多様なニーズに応える新たな公共交通体系の構築。
- ③ 町外移動の公共交通である平成筑豊鉄道や西鉄バス等への助成支援。